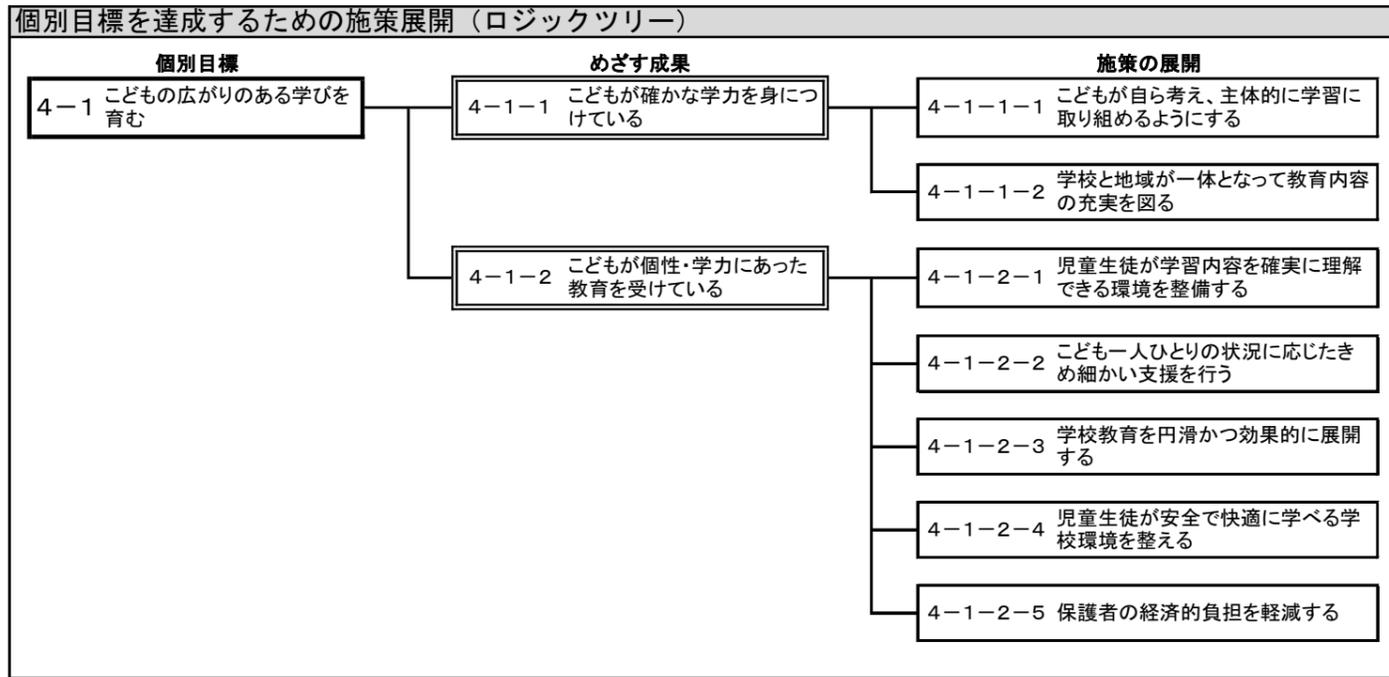


令和4年度 施策評価（二次評価）		
健康領域	人の健康	
基本目標	4	未来に向かうこどもの学びと歩みを支えるまち
個別目標	4-1	こどもの広がりのある学びを育む
	4-2	こどもの豊かな心・健やかな体を育む



成果を計る主な指標	前期基本計画期間（R1～R5年度）						
	計画当初値	実績値（R1）	実績値（R2）	実績値（R3）	中間目標値（R3）	最終目標値（R5）	
■めざす成果4-1-1							
① 基礎的・基本的な学習内容の習得を計る振り返り調査の通過率	(小3～6)	60.3%	68.4%	72.8%	75.6%	72.0%	80.0%
	(中1～2)	57.1%	62.8%	80.0%	84.1%	70.9%	80.0%
② 児童・生徒の1か月の平均読書冊数	(小4～6)	14.6冊	16.8冊	15.5冊	15.5冊	15.4冊	15.8冊
	(中1～3)	4.4冊	4.8冊	5.0冊	5.3冊	5.2冊	5.6冊
③ 「図書館を使った調べる学習コンクール」の応募数	6,992人	7,097人	1,939人	7,090人	7,200人	7,340人	
■めざす成果4-1-2							
① 子どもの個性や能力にあった教育が行われていると思う市民の割合	37.5%			42.6%	42.5%	44.5%	
② 特別支援教育センターで扱った特別支援や発達に関する保護者や学校からの延べ相談件数	201件	198件	185件	211件	240件	260件	

令和2年度 施策の進行管理に対する意見（令和元年度分）

令和3年度 施策の進行管理に対する意見（令和2年度分）

令和4年度 施策評価（二次）結果（令和元年度～3年度分）

個別目標全体
 ①個別目標4-1及び4-2の対象である子どもの学び等に関わる分野はコロナ禍の影響を大きく受けたと思われます。そのため、後期基本計画開始時点の状況を見通すことは難しいものの、総合計画審議会において、コロナ禍での実績を踏まえたうえで目標達成に向けた取り組みや指標の設定等について議論する必要があると考えます。

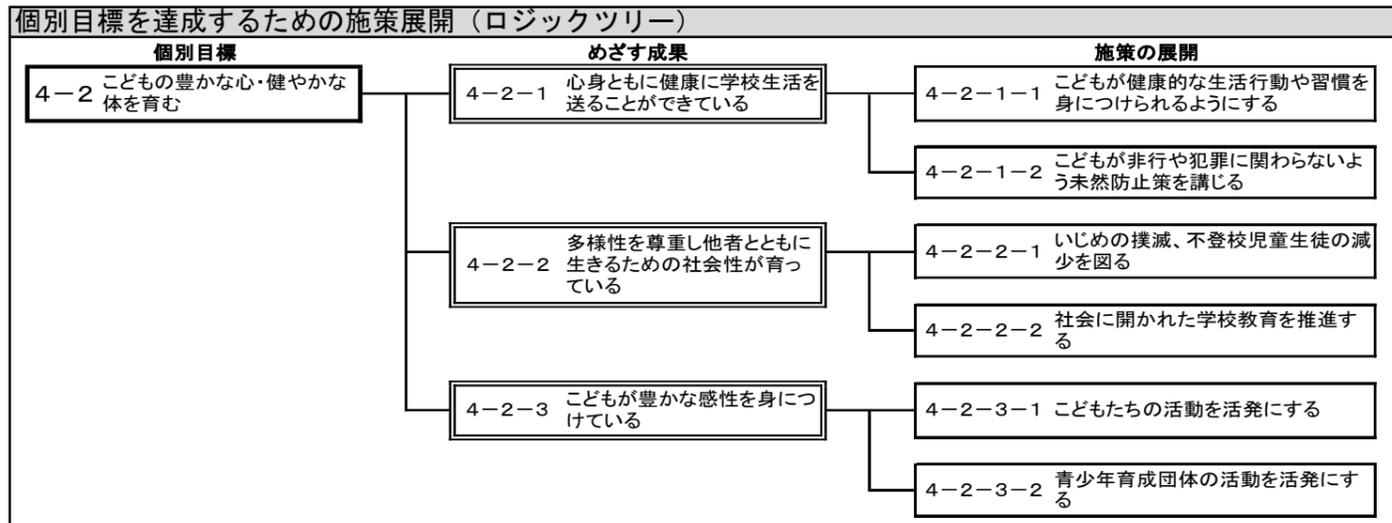
めざす成果4-1-1「子どもが確かな学力を身につけている」

②学校の運営体制及び部活の指導体制が、35人学級の導入、部活の顧問への地域人材の登用等、教員の負担軽減や地域と学校のつながりの強化を期待できるものへと変化していく背景を踏まえ、教育に係る取り組みの新たな方向性を後期基本計画において示すことが望ましいと考えます。
 ③成果を計る主な指標として指標②「児童・生徒の1か月の平均読書冊数」を設定していますが、本を全く読まない子どもの実態を把握できないことが課題です。そのため、不読率（本を全く読まない子どもの割合）を指標としたうえで、本を全く読まない子どもを減らしていくように取り組むことが必要です。
 ④指標③「『図書館を使った調べる学習コンクール』の応募数」について、応募状況の実態を正確に把握するためには、応募対象者数の大小によらない「応募率」がより適切な指標と考えます。また、調べる学習は、自ら学びに向かうようにするための効果的な教育方法としますので、適切な指標を設定し、より一層推進するようにしてください。なお、調べる学習において、一般常識や通説と異なるような結論を導き出した子どもがいた場合には、探求心を失わせることがないように留意して対応してください。
 ⑤各種コンクールへの応募を通して学ぶという機会がない子どもに対しても、別の方法で学力向上につなげる取り組みが必要と考えます。

めざす成果4-1-2「子どもが個性・能力にあった教育を受けている」

⑥指標①「子どもの個性や能力にあった教育が行われていると思う市民の割合」について、その実績値は、市民意識調査の実施時点で18歳未満の子どもがいない市民も含めた値であるため、子どもの個性や能力にあった教育の今現在の実態を正確に表していない可能性も考えられます。また、「子どもの個性や能力にあった教育」が分離教育を指し、市が分離教育を推進しているような誤解を与える恐れがあります。そのため、大和市における教育の成果をより適切に把握できるよう、市民意識調査における質問の仕方についてあらためて検討する必要があると考えます。
 ⑦GIGAスクール構想に基づき1人1台端末が実現した状況を踏まえ、教職員の情報リテラシー向上を図る施策を実施していく必要があります。この施策の成果については、情報処理に関する資格を取得した教職員の割合等、施策に基づく取り組みの量を表す指標（アウトプット指標）と指標①「子どもの個性や能力にあった教育が行われていると思う市民の割合」のような取り組みの質を表す指標（アウトカム指標）の両方を検証することにより適切に評価できると考えます。また、後期基本計画策定における指標の設定については、このようにアウトプット指標とアウトカム指標を組み合わせることも検討してください。
 ⑧指標②「特別支援教育センターで扱った特別支援や発達に関する保護者や学校からの延べ相談件数」について、目標値を増加方向に設定していますが、相談件数が増加していく状態は必ずしも望ましいものとは言えないと考えます。実現すべきは相談の必要がない、あるいは早期に解決できる状態であり、その状態を把握する指標として、相談案件1件あたりの平均相談回数や解決に至った相談案件の件数を設定することについて検討してください。さらに、解決に至った相談案件について、保護者等の相談者の満足度も把握するようにすれば、施策の成果をより正確に判断できると考えます。

令和4年度 施策評価（二次評価）		
健康領域	人の健康	
基本目標	4	未来に向かうこどもの学びと歩みを支えるまち
個別目標	4-1	こどもの広がりのある学びを育む
	4-2	こどもの豊かな心・健やかな体を育む



成果を計る主な指標	前期基本計画期間（R1～R5年度）						
	計画当初値	実績値（R1）	実績値（R2）	実績値（R3）	中間目標値（R3）	最終目標値（R5）	
■めざす成果4-2-1							
① 健康でいるために運動が大切だと考えると答えた児童生徒の割合	(小4～6)	95.9%	92.4%	98.6%	98.8%	98.0%	100.0%
	(中1～3)	95.0%	91.9%	98.6%	98.4%	98.0%	100.0%
② 小学校の給食残食率（野菜）	10%	11%	11%	12%	8.7%	8.0%	
③ 給食における地産地消の割合	20.2%	16.7%	15.6%	17.8%	24.0%	26.0%	
④ 学校PSメール世帯普及率	89.9%	93.0%	97.6%	99.1%	93.0%	95.0%	
⑤ 子どもの交通事故の市内発生件数	73件	64件	44件	58件	66件	62件	
■めざす成果4-2-2							
① いじめ、友人関係、家庭環境に係る不登校児童・生徒の改善の状況	(小)	46.4%	48.2%	47.1%	39.1%	49.2%	50.6%
	(中)	39.5%	36.4%	34.7%	38.0%	44.7%	47.3%
② いじめ問題の解消率	(小)	85.4%	84.9%	84.3%	81.9%	95.0%	100.0%
	(中)	93.8%	93.3%	66.6%	75.9%	98.0%	100.0%
③ 自分には良いところがあると思うと答えた児童生徒の割合	(小4～6)	65.4%	75.3%	82.3%	82.0%	71.4%	75.4%
	(中1～3)	67.8%	74.1%	79.5%	80.6%	73.8%	77.8%
■めざす成果4-2-3							
① 美術館等で対話による美術鑑賞を行った児童が美術作品に興味を持った割合	80.6%	82.0%		96.9%	83.6%	85.6%	
② 放課後子ども教室参加率	8.6%	8.6%	7.7%	6.8%	11.0%	12.0%	
③ 児童館の1日あたりの平均利用者数（全2館）	415人	360人	103人	156人	432人	440人	
④ 中高生ボランティア参加者数	83人	55人	0人	0人	130人	135人	

令和2年度 施策の進行管理に対する意見（令和元年度分）

めざす成果4-2-1「心身ともに健康に学校生活を送ることができている」
 ■「健康でいるために運動が大切だと考えると答えた児童生徒の割合」、「小学校の給食残食率（野菜）」、「給食における地産地消の割合」の指標について、健康都市を掲げる大和市では医療、高齢者への施策が充実しているという私的実感を持っている。当該指標が示す学童層への健康施策がどの程度充実しているのか、これを機に今後注視していきたいと思う。学童初期（幼小）での心身の基盤形成が、後の学童後期（小中）での「いじめ、友人関係、家庭環境に係る不登校児童・生徒の改善の状況」、「いじめ問題の解消率」、「自分には良いところがあると思うと答えた児童生徒の割合」にリンクしてくるのではないかと考える。

めざす成果4-2-2「多様性を尊重し他者とともに生きるための社会性が育っている」
 ■【再掲】「健康でいるために運動が大切だと考えると答えた児童生徒の割合」、「小学校の給食残食率（野菜）」、「給食における地産地消の割合」の指標について、健康都市を掲げる大和市では医療、高齢者への施策が充実しているという私的実感を持っている。当該指標が示す学童層への健康施策がどの程度充実しているのか、これを機に今後注視していきたいと思う。学童初期（幼小）での心身の基盤形成が、後の学童後期（小中）での「いじめ、友人関係、家庭環境に係る不登校児童・生徒の改善の状況」、「いじめ問題の解消率」、「自分には良いところがあると思うと答えた児童生徒の割合」にリンクしてくるのではないかと考える。
 ■「いじめ、友人関係、家庭環境に係る不登校児童・生徒の改善の状況」、「いじめ問題の解消率」については、大きく悪化しているわけではないものの、こどもの心の健康を守るためには重要な点であり、改善のための取り組みがより一層求められる。

令和3年度 施策の進行管理に対する意見（令和2年度分）

令和4年度 施策評価（二次）結果（令和元年度～3年度分）

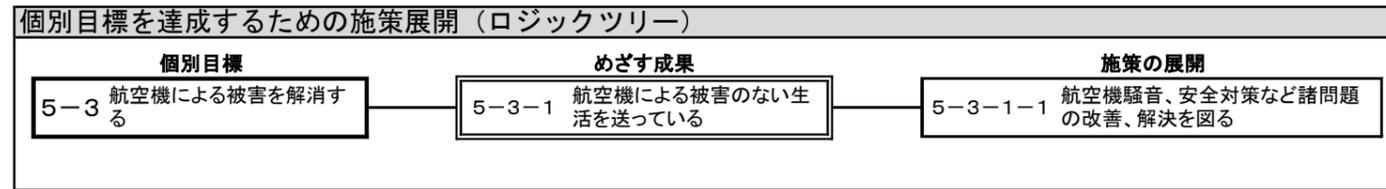
個別目標全体
 ①【再掲】個別目標4-1及び4-2の対象である子どもの学び等に関わる分野はコロナ禍の影響を大きく受けたと思われます。そのため、後期基本計画開始時点の状況を見通すことは難しいものの、総合計画審議会において、コロナ禍での実績を踏まえたうえで目標達成に向けた取り組みや指標の設定等について議論する必要があると考えます。
 ⑨最終目標値に近い、もしくは達成している成果を計る主な指標については、特に見直す必要があると考えます。ただし、新たな基本構想を策定する際には指標の大きな見直しも可能と考えますが、現基本構想の下での後期基本計画における目標値の設定については、前期基本計画からの継続性にも配慮してください。

めざす成果4-2-1「心身ともに健康に学校生活を送ることができている」
 ⑩指標③「給食における地産地消の割合」に関連し、学校における地産地消の推進にあたっては食育につなげていくことが重要と考えます。また、給食の残渣から生ごみ処理機により生成した堆肥を市内農家に提供し、その農家が育てた作物を給食に利用するという、自校調理校で導入している循環の仕組みを共同調理場にも導入することにより、より多くの学校で食育が進み、結果として指標②「小学校の給食残食率（野菜）」の改善につながる可能性もあると考えます。
 ⑪指標⑤「子どもの交通事故の市内発生件数」について、学校で交通安全教室等を実施していることを考慮すると、市全体での交通人身事故発生件数に係る目標よりも、より改善の方向を目指した目標を設定しても良いと考えます。したがって、令和3年に交通事故死者数0人を達成したことから現状で良しとすることなく、引き続き、子どもの交通事故件数を減らす工夫を行っていくようにしてください。
 ⑫自転車安全利用講習会の受講が条件となる幼児・児童用自転車ヘルメット購入助成の申請件数が、コロナ禍における当該講習会の定員制限等を要因として大きく減少しているようですが、自転車に乗る子どもの数が減少していることはないと思われるため、コロナ禍の影響を踏まえた取り組みを実施し、申請件数の改善を図ってください。

めざす成果4-2-2「多様性を尊重し他者とともに生きるための社会性が育っている」
 ⑬指標②「いじめ問題の解消率」について、数値とともにいじめが解消されたとする判断基準を示すようにしてください。また、解消率低下に対するコロナ禍の影響を検証した結果を踏まえ、今後の向上を目指して取り組んでください。

めざす成果4-2-3「子どもが豊かな感性を身につけている」
 ⑭子どもにとって放課後や土日の過ごし方として様々な選択肢がある状態を実現できるよう、児童館や放課後寺子屋やまよ・放課後子ども教室など、学校も含め、子どもの居場所づくりに関する各事業が連携するようにして取り組みを進めてください。

令和4年度 施策評価（二次評価）		
健康領域	まちの健康	
基本目標	5	安全で安心して暮らせるまち
個別目標	5-1	災害への対応力を高める
	5-2	暮らしの安全を守る
	5-3	航空機による被害を解消する



成果を計る主な指標	前期基本計画期間（R1～R5年度）					
	計画当初値	実績値（R1）	実績値（R2）	実績値（R3）	中間目標値（R3）	最終目標値（R5）
■めざす成果5-3-1						
① 時間帯補正等価騒音レベル（Lden）	69.6	59.8	58.6	61.6	逓減させるよう取り組みます。	逓減させるよう取り組みます。

令和2年度 施策の進行管理に対する意見（令和元年度分）

（この欄は空欄です）

令和3年度 施策の進行管理に対する意見（令和2年度分）

（この欄は空欄です）

令和4年度 施策評価（二次）結果（令和元年度～3年度分）

めざす成果5-3-1「航空機による被害のない生活を送っている」

⑮厚木基地の周辺地域においては、航空機の飛行に起因して、騒音被害のほかにも部品落下や墜落などのリスクも大きな問題となります。空母艦載機の移駐により騒音被害は軽減したと思われませんが、依然として市民の負担が大きいことを踏まえ、国の周辺対策事業の拡充等を求めていく方針を後期基本計画においても示したうえで、実際の基地対策を進めてください。

⑯航空機の騒音が直接的には関連しないものの、有害物質を含む泡消火剤の流出等、航空機の基地があるからこそ発生する被害や問題もあります。航空機に限らず、厚木基地があることに起因する諸問題についても、改善・解決に向けて引き続き取り組んでください。